

平成20年度 産業観光部 改革マニフェスト 自己検証シート

1) 目標と成果

マニフェストNo.	項目名 (担当部署)	集中改革プラン 項目No.	取り組み内容	区分	成果指標			活動指標①			活動指標②			自己評価	
					H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20		
1	環境負荷低減活動の推進 (農業振興課)	23-3	朱鷺と暮らす郷づくり認証制度等を通じ、生き物を育む農法の拡大により、水田でのトキの餌場の確保とトキをシンボルとした安全・安心な魅力ある佐渡米作りを推進します。	指標名	朱鷺と暮らす郷づくり認証制度の取組面積			特別栽培農産物認証制度の取組面積			-			B	
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	0ha	0ha	400ha	0ha	500ha	1,500ha	-	-	-		
				実績(B)	0ha	0ha	427ha	170ha	924ha	1,598ha	-	-	-		
				(A)と(B)の比較	0ha	0ha	27ha	170ha	424ha	98ha	-	-	-		
2	地域特性を生かした産業の振興 (農業振興課)	6-2	水田経営所得安定対策の見直しに伴う市町村特認を活用し、地域農業の核となる担い手を確保・育成します。	指標名	水田経営所得安定対策加入面積			認定農業者の認定数			-			A	
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	0ha	2,468ha	2,468ha	0人	0人	900人	-	-	-		
				実績(B)	1,616ha	2,210ha	3,711ha	681人	723人	1,225人	-	-	-		
				(A)と(B)の比較	1,616ha	▲258ha	1,243ha	681人	723人	325人	-	-	-		
3	地域特性を生かした産業の振興 (農林水産課)	6-2	島内の竹林は、竹材利用の伐採が進まなくなったほか、所有者の高齢化や地域の過疎化による手入れ不足により荒廃竹林が増加しています。平成24年度までに整備することを目標に、里山エリア再生交付金を活用した竹林整備事業を実施し、荒廃した竹林の整備や竹材の利活用(ペレット化の検証)を図ります。	指標名	竹林整備面積			竹林実態調査現地確認			年度別事業計画作成			D	
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	1.2ha	2.4ha	4.5ha	-	16.6ha	16.6ha	-	16.6ha	16.6ha		
				実績(B)	0.6ha	1.1ha	1.2ha	-	16.6ha	16.6ha	-	16.6ha	16.6ha		
				(A)と(B)の比較	▲0.6ha	▲1.3ha	▲3.3ha	-	0ha	0ha	-	0ha	0ha		
4	地域特性を生かした産業の振興 (農林水産課)	6-2	佐渡百選にも選ばれた小倉千枚田は、現在その大部分が耕作放棄されていて、かつての景観は見る影もありません。国・県・市・地域住民・NPO法人などと連携のもと、佐渡市における耕作放棄地解消のモデル地区として復田を行い、復元した千枚田においてオーナー制度や市民農園を導入し、都市との交流をとおして地域の活性化を図り、美しい島佐渡の復活と観光資源としての保全を進めます。	指標名	復田整備面積			小倉千枚田復活事業支援協議会の開催(月1回)			イベント(田植え、草刈、稲刈)の計画立案(年3回)			B	
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	0ha	1.0ha	1.0ha	-	-	12回	-	-	3回		
				実績(B)	0ha	0.6ha	0.9ha	-	9回	13回	-	-	3回		
				(A)と(B)の比較	0ha	▲0.4ha	▲0.1ha	-	-	1回	-	-	0回		
5	直営施設管理運営の適正化 (農林水産課)	8-2	現在直営条例等で管理している22施設のうち、手続きを進めている4施設は、県と譲渡に向けての協議を進め、国・県の譲渡認可を受けたのち、関係団体に譲渡します。海洋深層水製氷施設は指定管理者制度への導入準備を進めます。残る16施設については、公共施設の見直しの方向性に基づき、関係団体との協議を行います。	指標名	譲渡施設数			施設譲渡に関する協議			-			C	
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	0施設	4施設	4施設	-	10回	5回	-	-	-		
				実績(B)	0施設	0施設	3施設	-	8回	4回	-	-	-		
				(A)と(B)の比較	0施設	▲4施設	▲1施設	-	▲2回	▲1回	-	-	-		
				指標名	施設の指定管理			予想効果額			-				D
				指標の算式等	-			-			-				
				目標(A)	-	-	1施設	-	-	500千円	-	-	-		
実績(B)	-	-	0施設	-	-	0千円	-	-	-						
(A)と(B)の比較	-	-	▲1施設	-	-	▲500千円	-	-	-						
6	誘客の促進 (観光課)	6-2	平成19年度は7月に発生した中越沖地震により大きな影響を受けました。平成20年からは小木直江津航路が1隻体制となることから相当の落ち込みが予想されているところですが、本年秋に予定されているトキの試験放鳥や21年に実施される大型観光キャンペーン等を活用し、官民挙げて誘客事業に取り組みます。また、今後5年間の目標としては、地震等の被害がなかった佐渡市合併の前年度である平成15年の73万人の回復を目指します。	指標名	観光誘客数			外国人観光客入込数			佐渡観光協会ホームページアクセス件数			D	
				指標の算式等	県公表値			県公表値			社)佐渡観光協会公表値				
				目標(A)	-	68万人	68万人	-	-	6,000人	-	-	1,000,000件		
				実績(B)	65.4万人	60.5万人	59.8万人	-	3,872人	3,778人	-	500,000件	1,568,197件		
				(A)と(B)の比較	-	▲7.5万人	▲8.2万人	-	-	▲2,222人	-	-	568,197件		
7	合宿等誘致の推進 (観光課)	6-2	平成19年度に、高校・大学等の文化・スポーツ合宿を誘致するための助成制度を整備しました。島内の宿泊施設と連携し、県内の高校等や首都圏の大学を中心に誘客促進に努めます。	指標名	合宿誘致数			首都圏の大学による合宿誘致数			合宿誘致数(補助対象分)			C	
				指標の算式等	文化・スポーツ合宿で佐渡に訪れた合計			-			-				
				目標(A)	-	2,600人泊	7,000人泊	-	500人泊	800人泊	-	1,800人泊	2,000人泊		
				実績(B)	2,100人泊	5,200人泊	5,077人泊	-	636人泊	1,273人泊	-	3,316人泊	3,397人泊		
				(A)と(B)の比較	-	2,600人泊	▲1,923人泊	-	136人泊	473人泊	-	1,516人泊	1,397人泊		

平成20年度 産業観光部 改革マニフェスト 自己検証シート

8	企業誘致の推進 (商工課)	6-1	平成19年度に進出企業立地のための優遇制度を整備し、小型部品製造業、情報通信業、サービス業(コールセンター)等輸送コストの負担が少ない業種を考慮し、新潟県及び佐渡市東京事務所と連携を図りながら企業誘致活動を進めてきました。本年度は、島内の人口減少に歯止めをかけるべく雇用の場の確保に向け島外企業への意向調査、誘致事例の分析、島内企業の意見等を把握し、企業訪問を重点に企業誘致活動を推進します。	指標名	誘致企業件数			企業訪問件数			対応企業数			C		
				指標の算式等	-			-			-					
				目標(A)	-	1社	1社	-	5件	10件	-	3社	3社			
				実績(B)	0社	0社	0社	3件	8件	14社	1社	3社	1社			
				(A)と(B)の比較	-	▲1社	▲1社	-	3件	4社	-	0社	▲2社			
9	地域産業の推進 (商工課)	6-4	これまで十分利用されてこなかった地域資源を有効活用するため、平成19年度に実施した「佐渡地域資源活用活性化事業」の継続を図り、市内事業者(生産者含む)に対して市場競争力のある商品開発・研究支援・労働力確保のためのUターン者への職業紹介など総合的な企業支援を展開します。特に、商品開発・研究支援については産官学連携を中心に島内企業と大学等公的研究機関との共同研究活動を推進します。	指標名	U・Iターン者の職業紹介者数			相談会開催回数			-			C		
				指標の算式等	-			-			-					
				目標(A)	-	50人	50人	-	2回	2回	-	-	-			
				実績(B)	28人	30人	41人	-	2回	2回	-	-	-			
				(A)と(B)の比較	-	▲20人	▲9人	-	0回	0回	-	-	-			
						指標名	共同研究活動支援件数			-			D			
						指標の算式等	-			-						
						目標(A)	-	10件	10件	-	-	-		-	-	-
						実績(B)	2件	1件	4社	-	-	-		-	-	-
						(A)と(B)の比較	-	▲9件	▲6社	-	-	-		-	-	-

2) 取組過程と取組み後の対応

区分	チェック項目	自己評価	自己評価について(所見)
取組過程	取り組みの段階において市民への説明やPRを十分に行ったか。また市民からの質問に対応する方法や体制が確立されていたか。	B	CNS等による広報を実施。 市民への質問対応は出来ていたと思われる。
	目標達成に向けた部局内の体制は効果に対し相応な対応であり、かつ万全であったか。(過剰な活動や予算、人員による取組みがなかったか。)	B	産業観光部のマニフェストは普段の業務にかかわる事項が多く、特に過剰な予算や人員による取組みはなかったと思う。
	部局長のリーダーシップのもと、目標達成に向けた所管職員の意識啓蒙や部局内の風土づくりが行われたか。	C	各人の目標達成に対する意識については、それぞれ持っていたが、リーダーシップの点についてはもう少し各項目について適切な指示が必要であったと考えている。
	所管職員が佐渡市行政改革マニフェストの趣旨と内容を十分に理解し、目標の達成に向けて精力的に取り組んでいたか。	B	全ての項目が良いとは言えないが、目標達成に向けて努力したと感じている。思うような成果が出た項目もあるが、目標達成のためもう一工夫が必要なものもある。
	目標達成のための行程管理や関係機関等との調整が適切に行われていたか。	C	工程管理については、全体として後手後手に回った感がある。また関係機関等との調整については、もう少し連携を密にする必要がある。
	目標の達成に対する効果(アウトカム)の把握、または把握することの手立てをしたか。	E	目標達成の効果の把握については、計画時に想定しているので、別段手立ては行わなかった。
	目標を達成していない項目については、具体的な改善策を計画し、または他の手段により対応したか。	C	目標達成困難な事項については、改善計画等の検討を行い実施したが、あまり効果があったとはいえない。

平成20年度 産業観光部 改革マニフェスト 自己検証シート

取組み後の対応	実績と今後の対応について市民に説明を行ったか。	E	項目によっては、年度内若しくは次年度に対応している。
	取組みの過程と実績、課題点などについて部局内で話し合わせ、所管職員が状況を理解しているか。	B	毎月1回以上は各課長会議を実施し、部内の重点事業、マニフェスト等の進行管理を実施している。
	実績に対する市民の質問や要望に対応する方法を確立したか。	E	行っていないので今後確立したい。

3) 総評

今年度の取組みに対する部局長のコメント	
産業観光部のマニフェストについては、産業振興にかかわるものが主力であり目標に届かなかった項目が多かったことは反省しなければならない。今後は取組みのアプローチの工夫や、担当者のスキルアップを図る必要を感じた。 また、マニフェストの項目についても精査を要する感がある。	
【良かった点】	農業振興部門については、ほぼ目標に達することができた。
【悪かった点】	観光商工部門については、市の取り組みだけでは如何ともし難い部分は有るが、目標数値に届かなかったことは、今後の大きな課題と考える。今後、観光部門については、昨年12月に国、県、市、観光協会等で設置した「佐渡観光推進戦略会議」を中心に抜本的な観光振興を進める。